

寺報

令和2年(2020)初夏号 第137号(1)

発行 福島市田沢字寺前18
長秀院・仲興寺
TEL 024(548)1240
FAX 同上
ホームページ <http://www.choshuin.jp/>
e-mail info@choshuin.jp/

編集責任 渡辺 祥文



WHOのパンデミック宣言以来緊急事態宣言の発出と厳しい状況が現出しています。経済的なことなどを考えると本当に苦しいところですが、人間の生命が大切です。皆で力をあわせ、

三密(密閉・密集・密接)をさけて、ステイホームで頑張りましょう。

地蔵尊祈禱

上は、三月二十四日に地蔵尊祈禱を行い、新型コロナウイルス肺炎の終息と収束を願いました。お地蔵様のご縁日が二十四日なので必ずお経をおつとめするのですが、お地蔵様にもマスクをして頂き、ご祈禱いたしました。おまいりをしていただいたお母さんとお子さんにも手伝っていただきました。

案内板

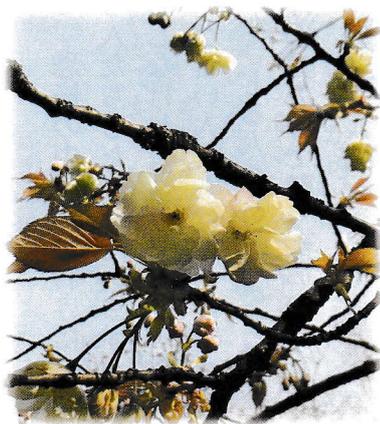
集会・会議等の行事を
全て中止いたします。

期間 令和二年五月中

緊急事態宣言に準じて、「三密」を防ぎ、極力接触のないように「寺院主催」の行事を五月中取り止めます。葬儀・法事・墓参等は、今後も行つてまいります。

令和二年四月

山主 拝



新型コロナウイルス肺炎 非常事態宣言の中で

家に来てください！

「ステイホーム」！

四月十一日に現在、新型コロナウイルス肺炎の感染拡大は止まっています。

寺院の行事を中止したのは、曹洞宗本体、福島県宗務所、各教区（福島市は第一教区）の方針に従い、長秀院・仲興寺の代表役員として判断したものです。

また、個人的に、東京のお世話になった六歳上（六十九歳）の方が新型コロナウイルスに罹患し、わずか発症から一週間で亡くなってしまい、その連絡を受けた四月十日は、唯々ショックでありました。身内や親しい方、お世話になった方の訃報は誰しも強い衝撃を受けるものですが、最近まで特に普通に過ごされ急な罹患で亡くなってしまおうということ、そしてそれが今特效薬もなくワクチンもなく、対処療法しか治療法がないという人類未知のウイルスによるものということに驚きと悲しみを覚えました。そのご家族も陽性で、如何ともしがたく、誰にも

見送られず、ご遺体を収める納体袋に密閉され直ちに火葬されたとのことでした。

感染症ですから仕方のないことですが、そこからの感染拡大にならないよう至急の処置、未知の感染症の必然の対処なのですが、本当に衝撃でした。

密閉・密集・密接の三密を避けて、家にいてください。お願いいたします。今は感染を防がなければなりません。新型コロナウイルスが発生発症確認から四ヶ月半（中国々内）、日本も厳しい状況ですし、福島も予断を許さない状況です。

高齢者、あえていうなら五十代以上は罹患したら簡単には済みません。苦しい闘病が待っています。『ステイホーム』、家から出ないでください。

働かざるを得ない人のことも考え、

差別の心を捨てて!!

皆、誰しも家にいたいはずですが、でも若い人たちは、悉く働かなければなりません。

マスクをして、恐怖の中、休むわけにいかず働いている人たちもたくさんいます。そのことも理解しなければなりません。高齢者は休めますが若い人たちは休めないのです。流通をつかさどる人たちも休めません。医療従事者は過労の中で闘っています。また休業を強いられている人たちの苦悩も大きいです。

さらに感染が起きても差別で排除したり、ただ非難してなりません。かかりたくてかかっているわけではありません。感染症なのです。誰しもかかる可能性があるのですから、忘れないようにしましょう。

自らと、多くの人を

守るために、家に来てください!!

高齢者が肺炎にかかったらなかなか治りません。死に至らなくても、予後はつらいものがあります。自らと、多くの人を守るため、家にいなければなりません。自分だけは大丈夫などと思ったり、ヒマだから誰かに会いたいもダメです。

今こそ坐禅の根本である「身を調える、息を調え、心を調える」が大切です。

つらいですが、みんなが支え合って共に頑張ってください。

曹洞宗は、現況に沿って種々の行事等を中止し緊急の態勢に入っています。今後も状況を見て態勢を変えていくとのこと。長秀院・仲興寺も「非常事態」であることを考え、当分の間行事・集会・会合等を中止いたします。

永平寺からの便り

弟子秀憲から三月の下旬連絡がありました。

電話であったのですが「永平寺は四月一日から、山内参拝がなくなります。我々もマスクをして、三密にならないよう工夫して修行する形になるようです」というものでした。

山内参拝の禁止とはどういうことだろうと確認の電話を受所（総受付）に確認をしてみたところ、「永平寺の中に入るのをやめて頂き、通用口から外を通って山門まで行き、そこから引き返していた

だく予定です」とのことでした。つまり、建物の中に入ることなく、外の通路から山門まで歩き、そのまま引き返して頂くということでした。

総勢二百名近い修行道場であるので、いったん新型コロナウイルスが入ってしまったら、クラスターと化してしまい、福井県内へバラまいてしまうこと、そして、全国から集った大事な修行僧をあずかっていること、両面で最大の防御をしなければならぬということ。です。

集団で修行して以上、密閉・密集・

密接の中であり、修行のやり方も変える必要があるのです。八百年の修行法を一部変えるのです。

「世界中、日本中がたいへんなんだと思います。福島はどうですか？福井はたいへんなようです。それから、みんな高齢なのだから充分気をつけてください」三年目となり電話も長く話せるようになり有難いことであると思うのですが、「みんな高齢なのだから」と弟子に言われ、改めて自分の年齢にハッとしました。私自身も数え年の六十五、昔であれば「六十のおじいさん」を越えています。無常迅速、心に銘しておかねばただ思うばかりです。

（祥文 拝記）

三月四月
各種行事
内献ないけんにて修行

新型コロナウイルス肺炎のため各行事を内献にておつとめいたしました。本来であれば多くの皆様に参列して頂き、いつものように修行したかったのですが、それもままならず、二密を避け内献といたしました。

三月十九日の仲興寺春彼岸会、念仏講主催念仏供養は丹治誠市副総代長、丹治久佳総代、皆川和夫念仏講長参列のもとおつとめいたしました。



仲興寺 3月19日 彼岸供養

た。まだ、今（四月十八日現在）ほど切迫はしていませんでしたが、正しい判断であつ



長秀院 3月28日 大般若不動尊例祭

たと存じます。

三月二十八日、長秀院大般若会・大聖不動明王尊例大祭・花まつり等は、ご寺院一名のお手伝いを頂きおつとめいたしました。

丹治庄衛総代長、丹治勤世話人、丹治敏子奉讃会々計等代表各位にご参列頂きました。また、四月十七日の観音例祭も同様に丹治庄衛総代長にご同席頂き修行しました。

四月に入り感染が拡大し、福島県も決して油断できない状態になっています。五月中の各種行事は四月よりも厳しい状況の中で行なわなければならぬと存じます。「不要不急のものに関しては出ない」の通り、気配りしてまいります。



長秀院 4月17日 観音例祭

仲興寺東壇墓地

参道全て完成

仲興寺東壇墓地の参道は三年前より整備が始まり、本年四月三日、三期目の工事完了、全長二二八メートルが整備されました。改めて長い参道が登りやすくなり、お詣りも楽になったと感想を頂きました。

長秀院第二霊園

蓬萊霊園斜面

松の木伐採

長秀院第二霊園の観音山頂上付近の斜面松の木を全面にわたって伐採いたしました。これは、木が大きくなったのと、松喰虫の被害で枯れ木となり倒木となる危険があるため全面伐採いたしました。霊園開所から四十二年の実生の木ですが、安全と今後の管理のため行いました。